

大阪万博協会との「懇談」 Part2

昨日 4 日 11 時から、万博予定地の夢洲をのぞむ咲洲で万博協会との二度目の「懇談」を行った。前回 2 月 21 日「懇談」以降のコロナ危機下で、万博協会が 2025 年万博開催にどのように対応しようとしているか、環境アセスメントの現状などについて問いただした。万博協会としても、コロナ危機に振り回されている感じで、「検討中」という回答が多かった。

そのなかで、万博アセスの現況調査が前回の懇談時よりかなり前、アセス方法書の確定前に実施されていることが明らかになった。これはアセス法、大阪市の条例にも違反するもので、大阪市環境局にも問題を投げかけたい。

ほかにも報告したいことがあるが、ここでは今回の懇談冒頭で「総括発言」することになっており、私のメモを紹介しておきたい。



◇私たち「夢洲懇談会」が 2 月 21 日に行った貴協会との「協議」では、次のテーマについて意見交換した。大阪・関西万博の環境アセスメント方法書について。愛知万博アセスの成果「博覧会理念の実現に資するアセス」「長期的な地域整備事業のアセスとの連携」などを踏まえ、大阪湾の人工島・夢洲という開催予定地にふさわしいアセス実施。大阪万博は「SDGs が達成される社会」を目指しており、アセスや会場計画についても SDGs からの視点がきわめて大切だと主張した。

そのほか防災・安全、IR=カジノ誘致などについても意見を述べた。協会側からは、まだ「検討中」という回答も多く、万博計画がまだ生煮えという印象をもった。

◇その後、事態は激変した。新型コロナウイルス感染拡大は全世界、全国そして大阪の地を揺るがしている。私たち夢洲懇談会も、コロナ危機は大阪の経済と生活にきわめて深刻な影響をもたらす重大問題として注視してきた。コロナ危機は「3 密」回避など、私たちの行動スタイルにも変革を求めている。世界的にも「ソーシャルディスタンス」が提唱され、オリンピックや万博といった国際的な大規模イベントの見直しが不可避になってきている。

夢洲という埋立中の人工島に、半年間で想定入場者 2800 万人を集めて、3 密を避け、ソーシャルディスタンスを確保して、万博を開催できるのだろうか。コロナ危機は大阪経済を足もとから揺るがし、企業収益や国地方の財政にも深刻なダメージを与えている。大阪万博を開催するためには、開催方法や会場の抜本的な変更が避けられないのではないか。こうした問題意識、危機感をもって、貴協会との「協議」に臨んでいる。

◇私たち夢洲懇談会は、貴協会に対してコロナ禍での万博計画の見直し、会場変更などについて申し入れをして、先ほど回答を得た。大阪府や大阪市、近畿経済産業局にも、同様の趣旨の要望書を提出し懇談している。また、**BIE** に数回にわたり手紙やメールを送り、コロナ危機での万博開催に警鐘を鳴らし、計画の抜本的な見直しを求めた。

◇今回の「協議」では先の回答を踏まえつつ、次の点についてお聞きして確認したい。

- ・環境アセスの準備書作成に向けた作業などについて
- ・**BIE** 総会が延期される中で、万博基本計画の作成について
- ・万博開催および会場計画と **SDGs** について
- ・夢洲への橋新設見送りとアクセス整備について
- ・万博の跡地計画、とりわけ **IR=カジノ** 誘致について
- ・その他

(2020年8月5日)